

生徒ら丹精の鉢植え寄贈

病院など公共施設を訪れ

浜松市庄内中学校(西区庄内町)の生徒らが十一日、病院やホテル、図書館といった市内五十四カ所の公共施設などを訪れ、スプレー菊の鉢植えを寄贈した。(赤野嘉春)

庄内中 40年以上の伝統



2年生から鉢植えを手渡される小林院長(左)ら
=浜松市中区富塚町の浜松医療センターで

県内有数の花産地をアピールしようと、四十年以上続けている伝統行事。全校生徒二百八十二人が七月初旬に苗を植え込み、花が咲き始めた五百七十鉢を手分けして配布した。

このうち浜松医療センター(中区富塚町)には、二年生十二人がピンクや黄色のかわいらしい花をつけた二十四鉢をプレゼントした。リーダーの坂本優紀さん(四)は「訪れる人たちの心を和ませ、みんなを幸せな気分にしてくれることを願っています」とあいさつ。看護師長らと出迎えた小林隆夫院長が「花にはフラワーセラピーという治療効果が期待される。患者の気持ちを和やかにしてくれるはず」とお礼を述べ、さっそく玄関周辺に鉢を並べた。